

古いウポボだという。歌詞の意味もよくわからなくなっている。1971年8月に質問したときはサダモさんは次のように説明した。“天国から気違いの神様が降りてきて、部落の人ら全部気違いになって、はだかになって、歌うやらおどるやら、ものも食わずに夜も昼も。そして踊って踊って踊りつかれて、みな死んでしまった。”

[リズムの合わせ方]

行			1				
手拍子							
1 (S)	×	×	Ayoro	— u	×	hoa	o
2 (K)	×	×	×	×	×	×	×
行			2				
手拍子							
1 (S)	kotan	—	mim	tar	—	hoa	o
2 (K)	×	kotan	—	mim	tar	—	hoa
行			3				
手拍子							
1 (S)	kasi	—	osinot	—	—	hoa	o
2 (K)	o	kasi	—	osinot	—	—	hoa
行			4				
手拍子							
1 (S)	ranke	—	ka	ye i	—	hoa	o
2 (K)	o	ranke	—	ka	ye	—	hoa
行			5				
手拍子							
1 (S)	kaye	—	Ayoro ...				
2 (K)	o	kaye	—				

[類歌]

No. 17 Upopo (9) は翌年, この同じ歌をワテケさんらと歌ったものである。ポーランドのピウスツキが80年前に録音して残したろう管にも, この同じ歌が入っている¹⁾。

今, 健在の古老にきいてみると, この歌を知っている人はいない。ただひとり, 沙流川上流, 下荷負の木村キミさんが, さらに上流の長知内(おさちない)のおばあさんからきいた upopo だと言って, 同じメロディーを次のような歌詞で歌っている:

Ayoro [u] soao kotan

mim tara soao kasi

osinot soao kotan

同じサダモさんが歌っているテープが, 門別町教育委員会に保存されている[『沙流アイヌの歌謡』No. 262(22-10)]. また, 姉のワテケさんと一緒に歌っているテープ[同 No. 122(12-25)], 姉のワテケさんが歌っているテープ[同 No. 13(1-13), No. 14(1-14)], 鍋沢元蔵さんが歌っているテープ[同 No. 205(19-4)]もある。NHK 『アイヌ伝統音楽』にも, アヨロコタンの歌が収められている[Nos. 25, 26(p. 42-44)]. なお, 『知里真志保著作集2』に, アヨロコタンの歌の筆録2篇(p. 82, p. 268)がある。それぞれに, インフォーマントによって異なった解釈や説明がつけられている。

1) Tamura & Nakagawa, "Hokkaido Ainu Songs in Pilsudski Recordings" in *Proceedings of The International Symposium on B. Pilsudski's Phonographic Records and The Ainu Culture*.